



創刊 1946(昭和21)年5月1日

発行所

日本教育新聞社

〒105-8436

東京都港区虎ノ門1-2-8

電話03(5510)7777(大代表)

郵便振替 00150-8-196500

©日本教育新聞社 2013

03(5510)7828

購読申し込み

メール kodoku@kyoi

ku-press.co.jp

ホームページ

http://www.kyoiku

ku-press.co.jp

グローバル人材の条件

<5>

グローバル人材とは、世界全体としっかり向き合い、その偏りや問題を捉え、世界を革新していける人である。

「自国民のアイデンティティを育てる国単位の教育の他に、世界共通教育が必要だ」と私が痛切に思ったのは、2001年9月11日、米国中核テロをニューヨークで経験し、世界の終わりもあり得ると実感した時



青山学院大学卒業。対米・アジアで25年間、「グローバル教育」というジャンルをパイオニアとして開拓し、タイム誌で紹介された。IBM、デュボンなど世界のトップ企業を顧客に持つ。2007年帰国。引き続き、企業と学校を対象にグローバル教育による人材育成に尽力。著書に『世界で戦える人材の条件』(PHPビジネス新書)。

渥美 育子 マルチカルチュラル・プレイングフィールド(MPF)社長

世界全体を心の目で俯瞰

だった。

この事件が目覚まし時計となり、米国で多くの保護者や学校関係者が外国語教育に異文化教育を加えるべきだと真剣に議論し始めた2004年、私は若者に特化したグローバル教育の会社を設立。2年かけて、子どものダイナミックな心を育てるプ

ある。

この稿では、日本のDNAを持つグローバル人材になる基礎条件について説明したい。

まず絶対に必要な条件は、80年代までの「国際化」モデルを21世紀の「グローバル」モデルに切り替えることだ。Internationalが国と国の間の関わりであるのに対し、GlobalはGlobe(地球)という言葉が表すように、地球丸ごとという意味であり、この

第三に、日本のDNAを生かして世界の役に立てる能力を磨くこと。日本人ほど社会の役に立ちたいと心底思っている民族はいないのに、マイクロレジット(経済的に貧しい人々を対象とした少額の融資)のようなモデルを日本人が作れなかったのは残念だ。

ログラム「地球村への10のステップ」を作成した。

それまで、今もなお日本で、世界のトップクラスの多国籍企業をグローバル化する支援を仕事としてきたので、子どもたち

二つの視点・発想は真逆なのである。窓の外の外国を眺めるのではなく、世界全体を心の目で俯瞰できる姿勢に切り替える必要がある。

格教育を行う道筋を付けたことになる。つまり、家庭でできるグローバル教育から世界市場を牽引するグローバルリーダーの育成までを視野に入れた教育で

第二に、文化を共有しない人々を説得し、感動させる思考パターンを身に付けること。例えば、日本のアイデンティティを外からも把握できるマルチカルチュラルな眼鏡の使用や、一つのことをマクロとミクロの両方から捉える手法などが英語力以上に重要なものだ。

日本人は「国際化」に成功し「グローバル化」につまずいている。これから多くの本物のグローバル人材を育て、日本を淨上させる必要がある。次稿では、「地球村への10のステップ」が実際どのような体験を可能にし、どのように受験勉強と補完的な世界を展開しているかをお話ししたい。